

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|---|----------------|-----|----------------------|
| 報告番号 | 博(医歯薬)甲第 997 号 | 氏名 | MAKAU JULIANN NZEMBI |
| 学位審査委員 | | 主 査 | 安田 二郎 |
| | | 副 査 | 森田 公一 |
| | | 副 査 | 濱野 真二郎 |
| <p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、現在臨床で使用されている抗インフルエンザ薬とは異なる作用機構をもち、薬剤耐性出現や抗原変異にも対応し得る抗インフルエンザ薬の開発を目指したもので、その目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 これまでに抗インフルエンザ薬として成功例のないウイルス核タンパク質 NP を標的とした薬剤を開発するために、先ずインフルエンザ A ウイルス株間で保存されているアミノ酸残基によって構成される NP の分子構造を同定している。次いで、その部位に結合する化合物をライブラリーから探索するためにスーパーコンピューターを用いた <i>in silico</i> スクリーニングを行い、更に、培養細胞でのウイルス増殖阻害を指標とした <i>in vitro</i> スクリーニングにより候補化合物を選抜するという手法をとっており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で探索した結果、NP に結合して低濃度で抗インフルエンザ活性を示すキノリン骨格をもつ化合物 NUD-1 の同定に成功しており、NUD-1 が NP 同士の結合を阻害することによりウイルス増殖阻害活性をもつことも明らかにしている。今後、さらに詳細な作用機構の解析や実験動物を用いた <i>in vivo</i> 解析を進めることで新規抗インフルエンザ薬開発への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は抗ウイルス薬開発研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p> | | | |